

式辞

風が柔らかくなりました。校門脇の枝垂れ桜が、仙台市立高砂中学校との交流の証であるタカトオコヒガンザクラが満開です。春の、動き始めた生命の息吹を感じるこのよき日、伊那市教育委員会様、保護者の皆様のご臨席を賜り、伊那市立東部中学校の令和三年度入学式をここに挙行できますことを、心より感謝申し上げます。

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

ここ伊那市立東部中学校は、伊那谷の真ん中を流れる天竜川の東の丘に立つ県下有数の大規模校であります。新入生二百六十四名を加え、生徒数は八百十九名、この学舎に勤務する職員は、今年度、八十二名であります。

みなさんの入学を二年生・三年生と共に全職員で歓迎し、これからの三年間が充実したものとなるよう全力で応援していきます。

さて、みなさん、今の状況から、こうやって、入学式ができるということ自体がとても貴重なことであり、実はいろいろな人たちの力添えがあつて行えていることが実感できていることでしょう。自分一人で生きているのではなくて様々な社会の関係の中で生きている、と感じている人も多いでしょう。今日、この日この時は二度と戻ってこない、貴重でいと

おいしいものだという感覚はとても大切なことだと思います。

そして、みなさんは、今日から中学生です。中学生という新たなスケッチブックに一日一日、線を書いていくことになる、ともいえます。みなさんは、この中学生という新しいスケッチブックにどんな線を描いていきますか。それは、一人一人で違うと思いますし、その時その時によっても変わってくるでしょう。力強い自信を持って描ける時の線もあれば、ちょっとおっかなびっくりで自信のない線のと きもあるかもしれません。くねくねの線の時もあるれば、まっすぐな線の時もあるでしょう。ただ、確かなことは、一日一日消せない線がそこに現れてくると言うことです。消せない線ですので、どうか一日一日を大切に歩んで欲しいと思います。

ただど時には、失敗してしまった、と思う線があったり、間違えてしまった、と感じる線を描いてしまうかもしれません。でもいいんです。肝心なのは、その後、それとは違う線を、自分らしいやり方を見つけてまた描いていけば良いのです。いくらでも挽回できるのです。

大切なことは、好奇心を失わずに興味があることを見つけようとすることです。自分から進んで描き続けていくことです。思いきって自分らしい線を描いていくことです。そうすれば、何かに出会えたり、何かを見つけられたりするかもしれません。中学生というスケッチブックに、すてき

な形が現れてくる可能性がある、ということなのです。自分の頭で考えて判断し行動してみることです。どうぞ、思いきってチャレンジする心をもった中学生になってください。

保護者の皆様、本日はお子様のご入学、誠におめでとうございます。小学校の卒業そして中学校の入学と慌ただしい日々を過ごされたことと思います。今日から中学生という新たな門出を迎えたわけですが、どうかお子様の姿に、心の目を絶やすことなく向けていただき、励まし支えてあげてください。そして、心配になることが出てきましたら、遠慮なくご連絡ください。学校と家庭とが密接な連携をはかり、子どもを真ん中にして共に考え合い、成長していく子どもたちの力になりたいと、願っております。私ども東部中学校職員はお預かりしたお子様のよさや可能性を引き出し、一人一人が精一杯の力を発揮できるように、全力であたる覚悟であります。どうかよろしく願いたします。

最後になりましたが、新入生へ励ましとご光彩を添えていただきました皆様に感謝申し上げますと共に、東部中学校の子どもたちの益々の成長を願ひまして、式辞といたします。

令和三年 四月六日 伊那市立東部中学校長 藤田 浩史